

2026年5月12日

各位

会社名 ミナトホールディングス株式会社  
 代表者 代表取締役会長兼グループCEO 若山 健彦  
 (コード: 6862、東証スタンダード)  
 問合せ先 常務取締役 CFO 三宅 哲史  
 (TEL 03-5733-1710)  
<https://www.minato.co.jp/>

**通期連結業績予想と実績値の差異および特別損失（のれんおよび固定資産の減損損失）  
 ならびに法人税等調整額（益）の計上に関するお知らせ**

2026年3月25日に公表した2026年3月期（2025年4月1日～2026年3月31日）の通期連結業績予想と実績値に差異が生じたのでお知らせいたします。また、本日開催の取締役会にて、2026年3月期において特別損失（のれんおよび固定資産の減損損失）を計上することについて決議いたしました。あわせて、2026年3月期において法人税等調整額（益）を計上いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2026年3月期通期連結業績予想と実績値の差異

(1) 業績予想と実績の差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想 (A) (2026年3月25日公表)	百万円 33,430	百万円 3,792	百万円 3,649	百万円 2,034	円 銭 273.18
2026年3月期実績 (B)	36,572	4,232	4,042	2,108	283.22
増減額 (B - A)	3,142	440	393	74	—
増減率 (%)	9.4	11.6	10.8	3.7	—
(ご参考) 前期実績 (2025年3月期)	24,540	767	582	373	50.36

(2) 差異が生じた理由

2026年3月期におきましては、当社グループの主要市場である半導体関連市場において、メモリーメーカーが生成AI関連製品の生産に注力したこと等を背景にメモリーの需給が逼迫し、価格は上昇基調で推移しました。このような事業環境のもと、主としてデジタルデバイスセグメントの好調

が継続して業績を押し上げたことから、売上高および各段階の利益がそれぞれ業績予想を上回りました。

## 2. 特別損失（のれんおよび固定資産の減損損失）および法人税等調整額（益）の計上

### （1）特別損失の内容

映像編集やライブ・エンターテインメント事業を展開する株式会社ブレーンについては、映像制作等の現場において一定のニーズがあるものの、当初計画に対して進捗の遅れが認められることから、今後の事業計画を見直した結果、保守的な観点より、のれんおよび固定資産に係る減損損失 536 百万円を特別損失として計上いたしました。これにより同社に係るのれん償却負担は今期以降発生いたしません。今後は事業構造の見直しと収益性向上に取り組み、事業計画を上回る利益成長を目指してまいります。

### （2）法人税等調整額（益）の内容

当社は、2026 年 3 月期の業績および今後の業績動向等を勘案し、繰延税金資産の回収可能性を慎重に検討した結果、回収が見込まれる部分について繰延税金資産を計上し、法人税等調整額（益）を△240 百万円計上いたしました。

### （3）業績に与える影響について

特別損失および法人税等調整額(益)の計上による業績への影響につきましては、本日公表の「2026 年 3 月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」に反映しております。

以上